

障害者の生涯を通じた学びの充実のためのコンソーシアム

第2回会議

(令和元年 9月19日)

障害者の生涯を通じた学びの充実のためのコンソーシアム 第2回会議

- 1 日 時 令和元年9月19日（木） 午後2時から
- 2 場 所 千葉市生涯学習センター 3階 特別会議室
- 3 次 第
 - (1) 開会
 - (2) 出席者紹介
 - (3) 主催者挨拶
 - (4) 協議
 - ア 協議1 学習プログラム開発について
 - ・特別支援学校における取組
 - ・さわやかちば県民プラザにおける取組
 - イ 協議2 学習講座の実践事例について
 - ・千葉県手をつなぐ育成会 研修部長 岩野 明子氏より
 - (5) 連絡
 - (6) 閉会
- 4 配付資料
 - 資 料 1：特別支援学校における取組に関する資料
「障害者の生涯学習支援」
 - 資 料 2：さわやかちば県民プラザにおける取組
「さわやかおんがく隊ワークショップ」
 - 資 料 3：障害のある方への学習講座等の実践事例に関する資料
 - 資 料 4：障害者の生涯を通じた学びの充実のためのコンソーシアム
今後のスケジュール
- そ の 他：連絡事項等

障害者の生涯を通じた学びの充実のためのコンソーシアム

学習プログラム開発Ⅰ (特別支援学校における取組)



千葉県立特別支援学校市川大野高等学園



令和元年度の取組

研究テーマ

障害者の学習支援

～生涯学習に係わる
効果的な学習プログラムの実践～



キーワード

～仲間と学ぶ、楽しむ、つながる～

千葉県立特別支援学校市川大野高等学園



障害者の学習支援の実践

～仲間と学ぶ、楽しむ、つながる～



生涯学習支援
連絡協議会

「学ぶ」プロジェクト
「ライフプラン」
生活者や生活者になり、
生活者の生活のライフプランを
考える

「楽しむ」プロジェクト
「リフレッシュ」
生活者や生活者になり、
生活者の生活を楽しむことで
生活者を支援する

「つながる」プロジェクト
「つながる」
生活者や生活者になり、
生活者の生活を楽しむことで
生活者を支援する

アンケート調査

先進事例の模倣

千葉県立特別支援学校
市川大野高等学園



今年度の実践・計画

6月	「楽しむ」プロジェクト ～第1回 生涯学習講座～ 第1回 生涯学習支援連絡協議会
7月	在校生アンケート調査
8月	舞浜コーポレーション視察 NPO法人障がい児・者の学びを保障する会視察
9月	「学ぶ」プロジェクト ～第2回 生涯学習講座～
11月	第2回 生涯学習支援連絡協議会 在校生と「つながる」プロジェクト
12月	「楽しむ」プロジェクト ～第3回 生涯学習講座～
2月	第3回 生涯学習支援連絡協議会

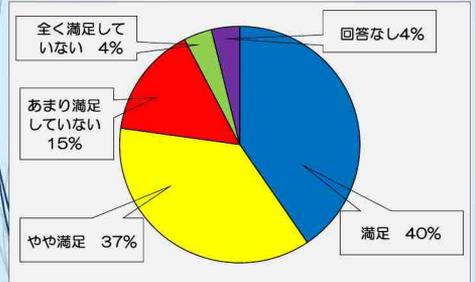
在校生アンケート調査

調査項目

- Q1 今の「学校生活」「余暇・趣味」「家庭生活・地域生活」に満足していますか。
- Q2 卒業後、学校で卒業生向けのプログラムを行うとしたら、どのようなものがあったら参加したいですか。
- Q3 学校卒業後に、支援してほしいことはどんなことですか。
- Q4 長く働くために必要な力はどんなことだと思いますか。
- Q5 知りたいこと、調べたいことがあるとき、よく使う方法はありますか。
- Q6 休日の過ごし方について、あてはまるものに○をつけてください

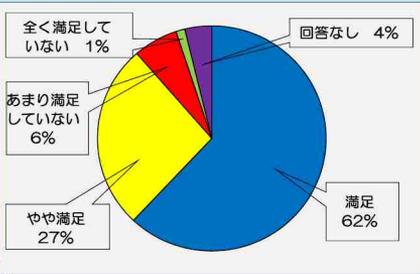
在校生アンケート調査

Q1 今の「学校生活」に満足していますか。



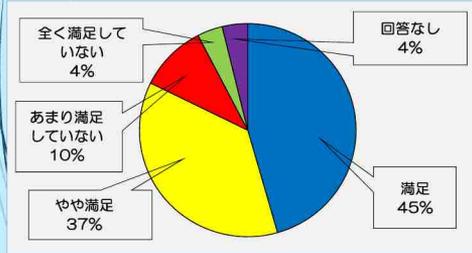
在校生アンケート調査

Q1 今の「余暇・趣味」に満足していますか。



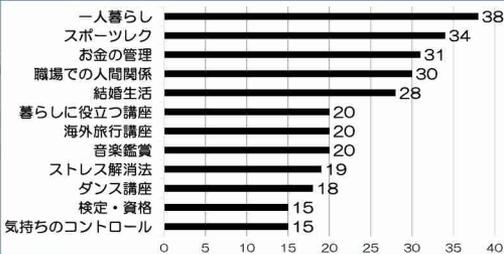
在校生アンケート調査

Q1 今の「家庭生活・地域生活」に満足していますか。



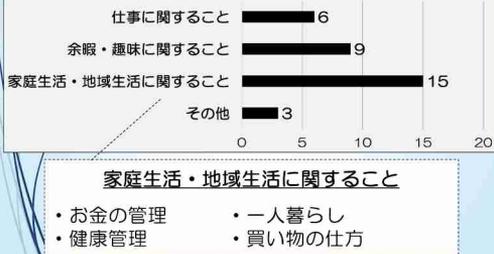
在校生アンケート調査

Q2 卒業後、学校で卒業生向けのプログラムを行うとしたら、どのようなものがあったら参加したいですか。



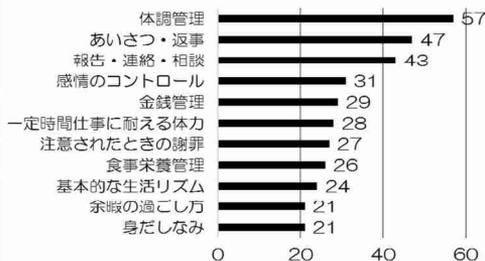
在校生アンケート調査

Q3 学校を卒業した後、支援してほしいことは、どんなことですか。



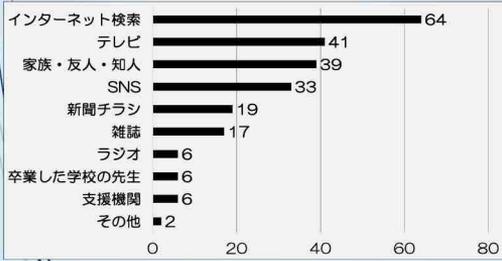
在校生アンケート調査

Q4 長く働くために必要な力は、どんなことだと思いますか。



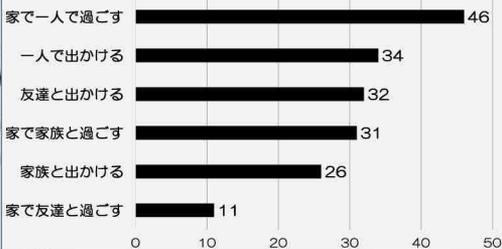
在校生アンケート調査

Q5 知りたいこと、調べたいことがあるとき、よく使う方法はなんですか。



在校生アンケート調査

Q6 休日の過ごし方について、あてはまるものに○をつけてください。



在校生アンケート調査から

「学ぶ」…在学中から学校で

- ・「学ぶ」プロジェクトは学校で在学中から参加可能にすることで、継続した学びを！

「楽しむ」…少人数で頻度を

- ・「楽しむ」プロジェクトはニーズが多様。社会資源を活用しながら、多様な講座を！

インターネットの活用

- ・情報提供はHP、SNSを活用！

先進事例の視察を通して 得られた貴重な学び

あきるのクラブ (東京都立あきる野学園)

舞浜コーポレーション

NPO法人 障がい児・者の 学びを保障する会

あきるのクラブ (東京都立あきる野学園)

CSRの取組の活用

- ・企業への協力依頼
- ・「本物」を体験できる活動を！

行政機関との連携

- ・東京都「放課後子供教室」受託事業

ボランティアの活用

- ・ボランティアサークルとボランティア養成講座

横河電機 CSRの取組 (サッカーチーム)

サッカーボールで 遊ぼう



外国語

楽器演奏



茶道・書道



ラグビー

引用：横河電機ホームページより

舞浜コーポレーション

株式会社オリエンタルランド特例子会社



金銭管理セミナー

- ・給与明細の見方
- ・お金の管理
- ・課金や詐欺被害

カッコいいキャスト

- ・困ったときの声のかけ方
- ・SSTリーダーの育成

ダンディズム・ フェミニズム講座

- ・ひげの処理
- ・トイレの使用方法
- ・女性特有の病気

SNS講座・消費者講座

- ・ドコモショップでの研修

全ての社員が講師を務める

舞浜コーポレーション

双方の取組、教材の共有

- ・蓄積した教材の共有、在校生・スタッフへの活用

職場定着のための生涯学習

- ・余暇活動だけではない、職場で安定して働くための学習

特例子会社連絡協議会との連携

- ・他県の取組を参考に、連携の可能性を探る

NPO法人 障がい児・者の学びを保障する会

当事者とともに考える場の設定

- ・生涯学習支援連絡協議会に当事者の参加を！

情報発信の工夫

- ・当事者が「わかる!」「行ってみよう!」と思う『ちらし』づくり

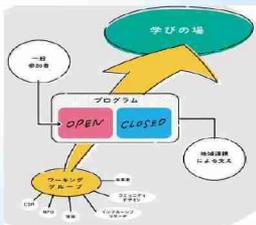
フォローアップ体制

- ・学んだことを汎化するための支援、居場所づくり

NPO法人障がい児・者の学びを保障する会

科学実験教室
2019.9.29(日)13:30-15:30

OPENとCLOSEDのプログラム
プログラムの検証(ワーキンググループ)
i-LDK



NPO法人障がい児・者の学びを保障する会

i-LDK

「どなたでも ご自由に
ゆるゆると お好きなように
お過ごしください。」
※当事者の皆さんが企画する
こともある。

9月

月	水	木	金	土	日
2	3	4	5	6	7
9	10	11	12	13	14
15	16	17	18	19	20
21	22	23	24	25	26
27	28	29	30	31	

レッツ@クッキング
2019年7月28日(日)
14時～16時
i-LDK

スイカわり & 花火大会
8月18日(土) 14時～16時
i-LDK

いんじんの大好き焼き屋さん
2019年7月28日(日)
14時～16時
i-LDK

持続可能な取組を目指して

誰が運営するの？

総務部 生涯学習係

生涯学習支援連絡協議会

学校支援サポーター

- 【目的】
- ・開かれた学校づくり
 - コミュニティスクール
 - ☆社会に開かれた教育課程
 - ・職員負担軽減
 - ☆働き方改革

【登録者】

- ・学生4名(令和元年9月10日現在)
- 【活動実績】
- ・学習支援 ・新着図書ラベル貼り
- ・アンケート入力



持続可能な取組を目指して

どこで、何を提供するの？

生涯学習支援連絡協議会

- 柏井公民館 → リンパトレーター
- 自治会 → グラウンドゴルフ
- なかぼつセンター → 暮らし方
- 順天堂大学 → パラスポーツ



持続可能な取組を目指して

運営資金は？

SNS・ホームページの活用

LINE@ → LINE公式アカウント

- ・職員向けの仮アカウントで試行
- ・無料プランの利用について問い合わせ中
- ・年内の運用を目指す

特例子会社連絡協議会

- ・企業との連携の可能性を探る
- ・「働きがい」と「生きがい」の支援



「つながる」プロジェクト

現状

「はじめの一步」
のための支援



- ・情報発信力 △
- ・情報の活用 ?

- ・相談支援
→電話相談
メールでの相談に対応
- ・同行支援
→初めて外部の講座に参加する方を対象に同行支援
- ・フォローアップ体制
→講座に参加してきて般化のための相談

第2回生涯学習講座

市川大野高等学園主催
生涯学習講座

障害者就業・生活支援センター
「いちざれん」

9月21日 10:30-12:15

10:30-12:15

10:30-12:15

10:30-12:15

10:30-12:15

10:30-12:15

10:30-12:15

10:30-12:15

10:30-12:15

10:30-12:15

10:30-12:15

10:30-12:15

10:30-12:15

10:30-12:15

10:30-12:15

10:30-12:15

10:30-12:15

10:30-12:15

10:30-12:15

10:30-12:15

10:30-12:15

10:30-12:15

10:30-12:15

10:30-12:15

10:30-12:15

10:30-12:15

10:30-12:15

10:30-12:15

10:30-12:15

10:30-12:15

10:30-12:15

10:30-12:15

10:30-12:15

10:30-12:15

10:30-12:15

10:30-12:15

10:30-12:15

10:30-12:15

10:30-12:15

社会福祉法人市川レンコンの会
市川圏域グループホーム等支援ワーカー



支援を受けながら
暮らすとは？

大野町4丁目自治会 緑風会



グラウンドゴルフ

第3回生涯学習講座

11月24日(日)
開催決定！！

順天堂大学

パラスポーツ体験
ポッチャ・ゴールボール 他

体を動かす楽しさ、パラスポーツ
以外にもたくさんスポーツが
あることを知ってほしい！



ゴールボール

ポッチャ

次回報告の予定

- | | |
|-----|--------------------------|
| 6月 | 「楽しむ」プロジェクト ～第1回 生涯学習講座～ |
| | 第1回 生涯学習支援連絡協議会 |
| 7月 | 在校生アンケート調査 |
| 8月 | 視察2 舞浜コーポレーション視察 |
| | 視察3 NPO法人障がい児・者の学びを保障する会 |
| 9月 | 「学ぶ」プロジェクト ～第2回 生涯学習講座～ |
| 11月 | 第2回 生涯学習支援連絡協議会 |
| | 在校生と「つながる」プロジェクト |
| | 「楽しむ」プロジェクト ～第3回 生涯学習講座～ |
| 2月 | 第3回 生涯学習支援連絡協議会 |

障害者の生涯を通じた学びの充実のためのコンソーシアム

学習プログラム開発！
(特別支援学校における取組)

ご静聴ありがとうございました！

千葉県立特別支援学校市川大野高等学園



「障害のある方の生涯を通じた
学びの充実をめざして」

さわやかおんがく隊ワークショップ

千葉県生涯学習センター・芸術文化センター
さわやかちば県民プラザ
事業振興課 星 一徳

「障害者の生涯を通じた学びのためのコンソーシアム」第2回会議 2019. 9. 19



本日の流れ

テーマ：「音楽を通して生涯の学びを充実させる」

1. 第4回ワークショップまでの課題・反省点
2. 課題・反省点からの改善
3. 第5～8回ワークショップまでの進捗状況
8月4日・18日、9月1日・15日
4. さわやか青年教室
8月18日・25日、9月15日
5. 今後の課題・展望



1. 第4回ワークショップまでの課題・反省点

- (1)受講生の能力差に応じたワークショップの構成
- (2)ゴールを明確に
⇒自主サークル化に向けたサポーターの養成
(自ら活動できる体制づくり)
- (3)発表の場の設定や、練習計画・方法の工夫
- (4)受講生の門戸を広げる(知的障害に限らない)



2. 課題・反省点からの改善①

- (1)受講生の能力差に応じたワークショップの構成
⇒ 曲の難易度ごとにグループを編成
・講師からの難易度ごとの楽曲提供
・講師やサポーターの見取りによる
グループ編成



2. 課題・反省点からの改善②

- (2)ゴールを明確に
⇒自主サークル化に向けたサポーターの養成
(自ら活動できる体制づくり)
⇒ 大正琴のサポーター養成講座
サポーターによる大正琴の紙鍵盤づくり



2. 課題・反省点からの改善②



2. 課題・反省点からの改善③

(3)発表の場の設定や、練習計画・方法の工夫

⇒ 楽器演奏能力によるグループ編成

- ・ヘルマンハーブと大正琴の2部構成
- ・サポーターを固定



2. 課題・反省点からの改善④

(4)受講生の門戸を広げる(知的障害に限らない)

⇒ 受講生の幅の広がり視野に入れていく
他の団体による実践も参考にしていく



3. 第5～8回ワークショップまでの進捗状況

・第5回 8月4日(日) 自主活動日②



久しぶりに
みんなで
合唱練習



楽器が
少なく
待つ時間が
長い



受講生同士の
教え合い





仲間
づくり

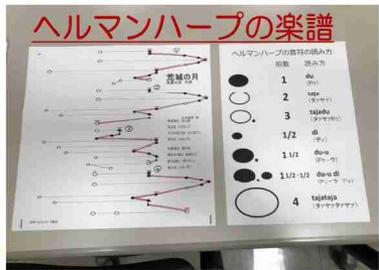


3. 第5～8回ワークショップまでの進捗状況

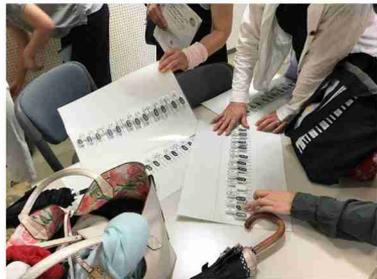
・第6回 8月18日(日) ヘルマンハーブ②



ヘルマンハーブ
サポーター
養成講座



楽器が
少なく
待つ時間が
長い



自主的な
活動へ



3. 第5～8回ワークショップまでの進捗状況

・第7回 9月1日(日) 合唱②



大正琴
サポーター
養成講座



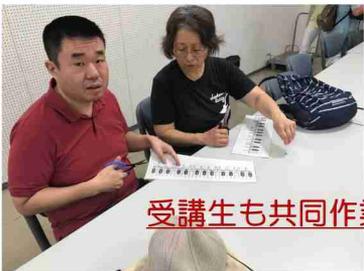
講師とサポーターの
役割分担



サポーターによる
自主的な活動



受講生も共同作業



3. 第5～8回ワークショップまでの進捗状況

・第8回 9月15日(日) 自主活動日③

受講生の希望調査

	7/21	9/1
合唱	8人	9人
大正琴	1人	6人
ヘルマンハーブ	1人	5人



- ・一斉での練習ではなかなか技能が身につかない
- ・サポーター養成講座が順調に進んでいる



楽器演奏能力に応じたグループ分け
大正琴とヘルマンハーブの2部構成の練習



サポーター中心の 自主的活動



4. さわやか青年教室

活動内容

- ・8月18日(日) さわやかカフェ②
- ・8月25日(日) カラオケ&ボウリング
- ・9月15日(日) さわやかカフェ③



4. さわやか青年教室

さわやか青年教室との関連

- ・8月18日(日) さわやかカフェ②



豊かな人生を 送るための 学びの場



4. さわやか青年教室

さわやか青年教室との関連

- ・8月25日(日) カラオケ&ボウリング

余暇活動



4. さわやか青年教室

さわやか青年教室との関連

- ・9月15日(日) さわやかカフェ③



5. 今後の課題・展望

- ・今年度の発表の質をどこまで求めるか
- ・講師とサポーターの思いのズレ
- ・自主活動日の活動内容、練習方法
- ・自主サークル化に向けた人材育成



ご清聴ありがとうございました



松戸手をつなぐ育成会

～本人会「松戸コアラ会」の余暇活動
と
今後の活動について～



コアラ会の現状

- 支援者の確保が難しい
- 自分たちだけの企画では、活動が限られてしまう
(主な企画はファミレスでの食事会)
- 会員が30名まで減少
- 平成30年度は、コアラ会活動一時休止
(立て直しのため、活動内容の見直し中)



「コアラ会」とは

- 松戸手をつなぐ育成会の本人部会
- 平成12年4月発足
- 県内で数少ない本人会(松戸、船橋)
- 知的障害を持つ方たちが、自主的に活動
- 自分たちでは難しいところを支援者が協力

コアラ会の今後

- 新規会員募集
- 活動拠点
- 活動内容
- ご本人の希望は？何をしたい？
- 支援者の確保が課題

当時のコアラ会の主な行事

- 新年会 初詣
- クリスマス会 忘年会
- 他の地域の本人部会との交流会
(取手市青年学級、
手をつなぐ育成会全国大会本人分科会&交流会)
- お花見 花火大会鑑賞
- ボウリング大会 調理 食事会 カラオケ
- 日帰り旅行 一泊旅行 etc

地域の仲間と余暇を楽しもう

- 余暇の過ごし方は人それぞれ
一人でのんびり 仲間とワイワイ
たまった家事をする etc
- 松戸手をつなぐ育成会では、仲間と一緒に楽しみた
いご本人に「レクリエーション企画」を提案
- 自分の好きなこと、みつかるかな？

障害者の生涯を通じた学びの充実のためのコンソーシアム

第2回会議 会議録

令和元年9月23日(木)

午後2時00分～4時30分

千葉市生涯学習センター 特別会議室

出席委員(敬称略五十音順)

上條 秀元 酒井 昌史 鈴木 一郎 三浦 正志
田上 昌宏(代理 岩野 明子) 中澤 尊史(代理 坂本 理恵)
藤尾 健二 向野 光

出席事務局職員

千葉県教育庁教育振興部生涯学習課 学校・家庭・地域連携室長
栗芝 博
同 社会教育振興室員3名
千葉県教育庁教育振興部特別支援教育課 主幹兼教育支援室長
安藤 深佳子
同 教育支援室員1名
さわやかちば県民プラザ 副所長 田中 祥子
同 事業振興課員2名

1 開会

2 出席者紹介

3 主催者挨拶 栗芝学校・家庭・地域連携室長

4 協議

- (1) 協議1 学習プログラム開発について ※資料参照
・特別支援学校における取組
・さわやかちば県民プラザにおける取組

- (2) 協議2 学習講座の実践事例について ※資料参照

主査 (向野委員) こんにちは。この度の台風により、多くの地域が大変な被害に遭われておりますこと、心よりお見舞い申し上げます。そのような中、御多用のところ皆様にご出席いただきましてありがとうございます。

8月の終わりから9月の初めにかけて、色々な動きがありました。会議における先進事例視察として、8月28日に所沢市のシャローム大学校を視察し、9月の7、8日は、文部科学省主催「超福祉の学校」に参加してまいりました。各地で障害を持つ方々の生涯学習や、一生涯を通じた学びについての機運が非常に高まり、進んでいることがよくわかるところでございます。私ども千葉県においても、市川大野高等学園や県民プラザにおける取組をより良いものにしていきたいと考えております。今回は、特に「協議」として、皆様方に色々なご意見や御示唆をいただきたいと思っております。議事というよりは協議として、活発に話し合い、主催する側、受ける側それぞれの立場の方が御出席いただいておりますので、皆様の意見を存分にお伺いしたいと思っております。

それでは、具体的な協議に入る前に、事務局から、協議のポイントなどについて説明してください。

栗芝室長 本日の協議ですが、まず、前回同様、特別支援学校、さわやかちば県民プラザにそれぞれの取組の進捗について説明をしていただいた後、皆様方に積極的な議論をいただきます。次に、岩野様から、千葉県手をつなぐ育成会を拠点に実施している活動について御紹介いただきます。他の委員の皆様方からは、御自身の取組にも触れながら、今後目指すべき具体的な取組について御意見をいただきたいと思っております。

皆様からたくさんのお示唆をいただきながら、千葉県の取組に反映できればと考えております。

主査 それでは、特別支援学校における取組について、千葉県立特別支援学校市川大野高等学園の田中校長、よろしく申し上げます。

発表者 【特別支援学校における取組の説明 資料参照】

(田中校長)

主査 前回から、具体的に問題点や方向性がはっきりと絞られてきたのではないかと思います。

それでは、皆様から御質問や御意見があればお願いします。

上條委員 今後の取組として、持続可能な取組を目指すということについて、きちんと整理してどういう課題があるのか示していらっしゃる点は、大変すばらしいと思われました。費用の面について、こういった取組は大変有意

義なので、他の特別支援学校での取組を奨励するという意味で、県としても予算化をするという方策を提案します。

主査 先程の提案の中でも、「本人参加」という話がありましたが、ぜひ明後日行われる生涯学習講座で本人の意見が聞けるとよいと思います。そういう意味では、座談会のような形で、参加者がどういう気持ちで何を求めているか聞いてみることも、一つの方法と考えます。

次に、藤尾委員お願いします。

藤尾委員 まず、アンケートが気になったのですが、うちの支援対象者に置き換えて考えると、答えられない人がたくさんいるのではないかと思います。「満足」と投げかけただけでは難しくないでしょうか。例えば、十段階評価で、「あなたの学校生活は何点ですか？」という質問の方が、本人の考えに近いものが拾えるのではないかと。また、サポートがないと、難しい。次回は、どういう風にサポートして、このアンケートを回答してもらうかというのがポイントになると思います。

それから、『持続可能』というところは、まさにSDGsが唱えられ、どこでも必ず『持続可能』という言葉がついてくるのですが、支援機関でやっているOB会や茶話会などは働いている方が対象なので、本人から参加費を徴収しています。逆に言うと、お金を払う価値に値するものを用意しなければならない。そういった参加者が満足するものを提供するためにはどうすればよいかということも考えていかなければならないと思います。

主査 支援機関ならではのご意見をいただきました。学校ではなかなかお金をとるという考えがないもので、「お金をとるに値する内容のプログラムを用意せよ」という視点をいただきました。

他にいかがでしょうか。鈴木委員、お願いします。

鈴木委員 私は県の社会福祉協議会に所属しておりますが、先程の発表の中で財源のことが課題であるというお話がありましたが、県社協で福祉団体の活動に対する助成事業をやっています。この活動が対象になるのではないかと。行政が実施するものについては対象になりませんが、協議会が実施主体となると、民間の任意団体の活動となるので、十分助成対象になるのではないかと考えております。他にも福祉事業に対する助成事業があり、特に金融機関を中心にして設けております。千葉銀行、京葉銀行、千葉興銀、その他各種金融機関が、いわゆる社会貢献事業の一環として基金を設けています。その他、新聞社では、千葉日報社の社会福祉事業団

でも行っております。そういった各種の助成事業を活用するの一つの手ではないかと思えます。毎年同じ事業では難しいのですが、各助成団体を活用しながら、それにより、継続的な財源を確保することも可能になってくると思えます。ですから、先程の講師の謝礼や備品などは、助成対象になります。持続可能な取組にするために、そういったものを活用する手立ても検討していただければと思っております。

主査 県の予算を活用しなくても、既存の事業を活用できるというご提案をいただきました。

それでは、さわやかちば県民プラザにおける取組について、星主査から御説明いただきます。

発表者 【さわやかちば県民プラザにおける取組の説明 資料参照】

(星 主査)

主査 この間、私も見に行きまして、それからずいぶんと内容が充実したと思います。サポーターの活躍が大変よくわかった御発表だったと思います。それでは、委員の皆様、ご意見いかがでしょうか。

三浦委員 何点かお伺いしたいのですが、サポーター養成講座を開いているということですが、サポーターはどういった形で集まったのでしょうか。

発表者 昨年度からの継続と、新たにチラシやホームページで募集して、御参加いただきました。

(星 主査)

主査 高校生の参加がありましたが、その経緯はいかがですか。

発表者 県民プラザ主催事業である「高校生ボランティア講座」の受講生の3名が参加しています。

(星 主査)

三浦委員 現在、何人のサポーターがいらっしゃいますか。

発表者 登録は15名です。毎回の活動は、10名くらいが参加していただいています。

(星 主査)

三浦委員 県内の方ですか。

発表者 はい。近隣の柏、流山、松戸、鎌ヶ谷の方がほとんどです。

(星 主査)

- 三浦委員 広い範囲で募集できるのはよいと思います。
もう一点、さわやかカフェとワークショップが同じ日に実施されていますが、こういった形で行われているのでしょうか。
- 発表者 (星 主査) 音楽隊の活動を10時から正午まで行っておりまして、昼食を挟んで、14時から15時までさわやかカフェを行っております。音楽隊に入っていない方でも、カフェに参加してくださる方もいらっしゃいます。
- 三浦委員 受講生同士で教え合うという場面がありましたが、堀江公民館で行っている「きぼう青年学級」では考えづかったものですから、こういった音楽活動も取り入れていきたいと思っています。
- 主査 他にいかがでしょうか。藤尾委員お願いします。
- 藤尾委員 昨年度よりも進んでいるようで驚きました。これから門戸を広げていくという点ですが、明らかに準備が必要な方もいれば、来ないとどんな準備が必要なのかわからない方もいます。そこは、勇気をもって門戸を広げていきながら、対象を考えていくことも必要であると思います。『自主サークル化に向けた運営育成』という点が気になったのですが、今後はさわやかちば県民プラザが場所提供という役割を行っていくことになるのでしょうか。
- 田中副所長 それが理想ではありますが、ただ来年は主催事業として行っていきますが、文科省の委託が来年度までの三年間ということですので、将来的には自主サークル化を目指していきたいと思っています。また、堀江公民館さんのように別事業として考えていきたいと思っております。県の生涯学習センターとして全県のモデルとなるような取組を考えていきたいと思っております。
- 藤尾委員 県のモデルとして重要な役割を担うわけですが、サポーターは流動的なので、サポーターが主体でやっていくのはあり得ないと思います。サポーターの中にリーダーを設けても、無理だと思います。であれば、門戸を広げることによって、いろんな障害種の方が入ってきて、その障害のある方の中で誰が音頭をとるのかという風に考えて、最初からそのイメージをもっていかないと、おそらく継続は難しくなると思います。ですから、知的障害の方でもそういったことをできる方もいらっしゃるでしょうし、身体障害や精神障害の方が入ってきて、できるかもしれません。徳島県の事例で、みんなで海外旅行に行くために、ツアコンのオーディ

ションをやったそうです。自分たちが楽しむためにどうやっていくのか。ニーズがあるのはご本人たちですよ。続けたいと思うのはご本人たちなので、最終的にはそこに行きつくようにどう組み立てていくか、サポーターを中心に考えていくと最終的に困ってしまうのではないかと思います。ただ、ここまでの過程は急激に進んでいるので、この先について考えていくとよいのかなと思います。

主査

県民プラザから持続可能の視点でどのように組織作りをしていくかという話題がありました。自主サークル化をする上で発起人は必要ですが、その後の後継者が現れず、疲弊し先細ってしまう。あるいは、学生中心の場合も、後継者が見つからずに4年生になり、やがて卒業し、ボランティアが終わりということもよく見られる。そういう意味では、どこかが主体となりながらサポーターを募集していく、そこを誰が担うかということがカギになると思います。他にいかがですか。上條委員お願いします。

上條委員

今の提案について、昨年県民プラザの取組を拝見したところ、参加者の中からリーダーを選出して、障害者が主体となって運営している場面が多く見られました。今年度も引き継いでいращやと思うので、それが今後も核となってくると思います。そこに期待したいと思います。

主査

それでは、次に、岩野様から実践事例の紹介をいただきます。よろしくをお願いします。

発表者

【「コアラの会」取組事例の説明 資料参照】

(岩野氏)

主査

私たちの未来をも考えていく材料として、非常に楽しい話題をいただきました。昨年、本会における県外視察ということで、広島県の「集いの広場あゆみ」に行かせていただきましたが、そこでの参加者の自由な発想に寄り添って場を提供してくれるという運営にうらやましさを感じたことを覚えています。松戸市においても、いずれそのような活動が展開されることを期待しております。

オープンスペースの場合は、休日ということで考えていращやののですか。

発表者

(岩野氏)

仕事をしている方も多く、土曜日も出勤日という方も多いことから、日曜日に設定したいと考えています。会員を10月に募集し、11月に話し合いをして、参加者の都合を聞いて決めていきたいと思っています。いずれは一泊旅行ができたかと考えています。

主査 皆様から、ご質問やご意見がありましたらお願いします。藤尾委員お願いします。

藤尾委員 こういった活動は、法人がサポーターをやっていることが多い。育成会として親の会が中心となって運営していらっしゃるようですが、なかぼつは連携していないのでしょうか。主人公は間違いなくご本人ですが、誰がサポートをしていくか。ボランティアを活用してまわっていったらどうか。どこかのゼミと連携してどうか。

発表者 福祉学科のある高校や大学において、学生が登録して、学校からサポーターを派遣してくれたという例があるので、今後活用していきたいと思います。
(岩野氏)

主査 地元の高校生にサポートをお願いするのはよいと思います。
それでは、3つの発表を通じて考えていきたいのですが、持続可能な活動にしていくために、活動の主体をどうとらえればよいのか、サポーターはどのように育成していくのか、その中心になるのはもちろんご本人であることはいずれの発表の中でもはっきりした点ですが、サポーターなしには難しい。学校がやっていくのも限界があるし、難しい。そのつなぎの部分学校が担っていく。それを引き受けていく生涯学習の場としては、サポーター養成なくして難しい。永続的な支援をしていくためには、今後どうすべきかが問題になってきます。この点について、皆様方から御意見があればお聞かせください。藤尾委員、いかがですか。

藤尾委員 どう本人主体にもっていくかが悩みどころ。現在は、なかぼつセンターの仕事として、ある程度こちらがリードして実施しているが、最終的には本人主体でやってみるという場をどのように提供していけるかが難しいところです。最近の旅行の例でいうと、大所帯になればなるほど、意見の集約が難しく方向性が定まらない。今後整理していかなければいけないと思っていることは、「サポーターの役割とは何なのか」ということ。あくまでも本人たちが行き届かないことをやるという役割もあるし、気づいていないことに気づくという役割もある。先程、講師とサポーターのジレンマの話もありましたが、講師は技術を教え、サポーターは参加者のニーズにどう応えていくかということをやりがいをもってやっていく方であると思います。その中で、サポーターはどのようなスキルが求められるかと考えると、技術ではなく、どう引っ張っていくか、どう先行きを見通せるかが問題になってくる。いかにより良いものを見通して人材を育成できるかが、永遠の課題であるのではないかと思います。

主査 学校においては、いかがですか。

田中校長 宮崎先生から新しい市川大野ならではの生涯学習講座をつくるように御教示いただきました。学校の職員が主ではないやり方でやっていく。しかしながら、軌道に乗るまでは学校職員がリーダーシップを発揮しなければならない。地域のリソース、具体的にはなかばつセンターや大学のゼミ、地域の自治会等とつないでいければ、持続可能な取組になるのではないかと考えています。そこに高等学校等との連携も探り、つながりが広がっていくのではないかと考えています。本人主体ではあるが、サポートする我々も楽しい活動をつくっていかないと考えております。

主査 持続可能な取組、サポーターの養成を含めて、どうしていくか。次の会議への宿題になっていくのではないかと思います。

東京を含めて、青年学級の活動の中心は余暇活動と、お金やインターネットのしたことなど生活に必要な学びがメインとなっています。先日視察したシャローム大学校では、「遺伝子について」という難しい内容で、いわゆる知的な学びを提供されておりました。県民プラザでも多くの学びを企画されているようですが、ぜひ知的な学びも提供していただければと思います。シャローム大学校での参加者のわくわくした様子は、「学び」は一生なのだということを強く感じる契機となりました。生きていくための学びも必要ではありますが、一方で知的な学びも大切であると強く思います。学校、県民プラザ、当事者に一番近いところにいらっしゃる親の会など、色々な試みをしながら、千葉県としてのモデルをつくっていきたいと思っております。

事務局から話がありましたが、今年は先進地域について、委員の皆様にもぜひ一緒に色々な取組をご覧ください、それぞれの場所で生かせるアイデアをお持ち帰りいただければと思います。

それでは、本日の協議は以上です。

5 連絡

6 閉会

障害者の生涯を通じた学びの充実のためのコンソーシアム

第3回会議

(令和元年11月26日)

障害者の生涯を通じた学びの充実のためのコンソーシアム
第3回会議

1 日 時 令和元年11月26日(火) 午後2時から

2 場 所 千葉市生涯学習センター 3階 特別会議室

3 次 第

(1) 開会

(2) 出席者紹介

(3) 主催者挨拶

(4) 協議

ア 協議1 学習プログラム開発について

・特別支援学校における取組

・さわやかちば県民プラザにおける取組

イ 協議2 県外先進事例に係るヒアリングについて

ウ その他

(5) 連絡

(6) 閉会

4 配付資料

資 料 1 : 特別支援学校における取組に関する資料
「障害者の生涯学習支援」

資 料 2 : さわやかちば県民プラザにおける取組
「さわやかおんがく隊ワークショップ」

資 料 3 : 障害者の生涯を通じた学びの充実のためのコンソーシアム
スケジュール

障害者の生涯を通じた学びの充実のためのコンソーシアム

学習プログラム開発！ (特別支援学校における取組)



千葉県立特別支援学校市川大野高等学園



年間スケジュール

本日の報告

6月	「楽しむ」プロジェクト ～第1回 生涯学習講座～
	第1回 生涯学習支援連絡協議会
7月	在校生アンケート調査
8月	視察2 舞浜コーポレーション 視察
	視察3 NPO法人障がい児・者の学びを保障する会
9月	「学ぶ」プロジェクト ～第2回 生涯学習講座～
11月	第2回 生涯学習支援連絡協議会
	在校生と「つながる」プロジェクト
	「楽しむ」プロジェクト ～第3回 生涯学習講座～
2月	第3回 生涯学習支援連絡協議会

第2回生涯学習講座

市川大野高等学園主催
生涯学習講座

9月21日(日) 10:30-12:15

講師 佐藤 浩一先生

聴講料 400円

申込先
市川大野高等学園 事務局
〒270-0292 千葉県市川市大野4丁目1番地
TEL 047-303-8111 FAX 047-303-8114

障害者就業・生活支援センター「いちざれん」

社会福祉法人市川レンコンの会
市川圏域グループホーム等支援ワーカー

支援を受けながら暮らすとは？

大野町4丁目自治会 緑風会

グラウンドゴルフ

第2回生涯学習講座

参加者の内訳

参加者の声

参加者の内訳

市川大野	50%
市立市川	9%
須和田	6%
流山	2%
千葉県大附属	4%
都立綾瀬	2%
その他	27%

参加者の声

【支援を受けながら暮らすとは？】

- ・具体的な話が聞けて良かった。
- ・今できることがわかりました。
- ・色々な暮らし方の選択技を知ることができました。
- ・なかなか情報を得る機会がないのでありがたいです。

【グラウンドゴルフ】

- ・すごく楽しかったです！！
- ・満足しました！またやりたい！
- ・マナーについて学べました。

第3回生涯学習講座

第3回
市川大野高等学園主催
生涯学習講座

11月24日(日) AM9:00～12:00

会場：市川大野高等学園

聴講料 400円

申込先
市川大野高等学園 事務局
〒270-0292 千葉県市川市大野4丁目1番地
TEL 047-303-8111 FAX 047-303-8114

順天堂大学

パラスポーツ体験
ゴールボール
シッティングバレーボール

体を動かす楽しさ、パラスポーツ以外にもたくさんのスポーツがあることをしてほしい！

ゴールボール シッティングバレー

市川大野高等学園 障害者の学習支援の実践

「つながる」プロジェクト

「知ることによって、仲間や周囲の障害者に対する理解や関心を持って、「在野生」とつながる。生涯学習を通じて、障害者の社会生活に貢献できる「障害者生活支援」を目指して、生涯学習活動を実施しています。

千葉県立特別支援学校市川大野高等学園

「地域とつなぐ」

【在校生】
情報提供



- ・公開講座
- ・施設開放事業

【卒業生】
LINE公式アカウント



- ・本校の
生涯学習講座の案内

「在校生」とつなぐ

地域にある豊富な資源を知り、活用する



西部図書館
「訪問読書支援」



千葉県立美術館
「スクールプログラム」

「在校生」とつなぐ

地域にある豊富な資源を知り、活用する



卓球部

市川市卓球連盟
OASIS 市川卓球教室
専任コーチ

サッカー部

ヴィヴァイオ船橋コーチ
バルドラル浦安
デフィオとの合同練習

テニス部

市川市テニス協会コーチ

地域の専門家に学び、本物に触れることで
「生涯スポーツ&学習」につなげたい！

令和2年度の取組（予定）

研究テーマ

障害者の学習支援

～生涯学習に係わる
効果的な学習プログラムの実践～



キーワード

～仲間と学ぶ、楽しむ、つながる～

持続可能な取組を目指して

誰が運営するの？



どこで、何を
提供するの？

運営資金は？

持続可能な取組を目指して

誰が運営するの？

生涯学習支援連絡協議会

総務部 生涯学習係

学校支援サポーター



- 【目的】
- ・開かれた学校づくり
→コミュニティスクール
- 【活動実績】
- ☆社会に開かれた教育課程
 - ・職員の負担軽減
 - ☆働き方改革

【登録者】

- ・学生4名（令和元年9月10現在）
- 【活動実績】
- ・学習支援 ・新着図書ラベル貼り
- ・アンケート入力



持続可能な取組を目指して

どこで、何を提供するのか？

生涯学習支援連絡協議会

- 柏井公民館 → リンパトレーナー
- 自治会 → グラウンドゴルフ
- なかぼつセンター → 暮らし方
- 順天堂大学 → パラスポーツ



持続可能な取組を目指して

運営資金は？

SNS・ホームページの活用



- LINE@ → LINE公式アカウント
- ・職員向けの仮アカウントで試用
- ・無料プランの利用について問い合わせ中
- ・年内の運用を目指す

特例子会社連絡協議会

- ・企業との連携の可能性を探る
- ・「働きがい」と「生きがい」の支援



「学ぶ」プロジェクト

「楽しむ」プロジェクト

ライフプラン

- ・障害年金
- ・グループホーム
- ・ひとり暮らし

リフレッシュ

- ・運動不足解消
- ・健康を維持する

社会生活

- ・職場でのコミュニケーション
- ・お酒との付き合い

豊かな人生

- ・余暇の充実
- ・スキルアップ

New!

【卒業生のほっとルーム】

なかぼつセンター・みらいクラブ・自治会
パートナーシップ企業・公民館・大学 等

「つながる」プロジェクト

地域と

在校生と

卒業生を

- ・情報提供
- ・相談支援

- ・各教科及び教科等横断的学習の取組
- ・外部人材の活用
- ・総合的な探究の時間

- ・成人を祝う会

【卒業生のほっとルーム】

公民館・なかぼつセンター・みらいクラブ
同窓会・自治会・大学 (本校親の会)

当事者の参加を！！

生涯学習支援連絡協議会

わかりやすい内容
発言しやすい
雰囲気

福祉 教育

地域 労働

- ・なかぼつセンター
いちろさん

- ・市川大野高等学校
同窓会
- ・みらいクラブ
- ・柏井公民館
- ・順天堂大学

- ・大野4丁目自治会
- ・市川市教育委員会

- ・舞浜コーポレーション

年間スケジュール

6月	「楽しむ」プロジェクト ～第1回 生涯学習講座～	
	第1回 生涯学習支援連絡協議会	
7月	在校生アンケート調査	
8月	視察2 舞浜コーポレーション視察	
	視察3 NPO法人障がい児・者の学びを保障する会	
9月	「学ぶ」プロジェクト ～第2回 生涯学習講座～	
11月	第2回 生涯学習支援連絡協議会	今後の予定
	在校生と「つながる」プロジェクト	
	「楽しむ」プロジェクト ～第3回 生涯学習講座～	
2月	第3回 生涯学習支援連絡協議会	

「障害のある方の生涯を通じた
学びの充実をめざして」

さわやかおんがく隊ワークショップ

千葉県生涯学習センター・芸術文化センター
さわやかちば県民プラザ
事業振興課 星 一徳



「音楽を通して
生涯の学びを充実させる」

本日の流れ

1. 自主活動日の進捗
2. 今後の課題・展望



「障害者の生涯を通じた学びのためのコンソーシアム」第3回会議 令和元年11月26日

まずは活動の様子をご覧ください

・10月6日(日)
大正琴ワークショップ

動画 大正琴
(チューリップ)

・11月10日(日)
ヘルマンハーブワークショップ

動画 ヘルマンハーブ
(星に願いを)

・10月6日(日)
大正琴



・11月10日(日)
ヘルマンハーブ



1. 自主活動日の進捗

(1) 展望

- ヘルマンハーブ
- 大正琴
- 合唱
- サポーターの養成

自主活動日

障害者の生涯学習推進

発表の場

- 自信
- 生きがい
- 活動の普及・啓発

自主サークル化

年間活動計画の変更

月	日	時間	活動内容	月	日	時間	活動内容
1	6 / 9(日)	10:00~12:00	出逢いの会・合唱①	11	11 / 10(日)	10:00~12:00	ヘルマンハーブ③
2	6 / 30(日)	10:00~12:00	自主活動日①	12	11 / 24(日)	10:00~12:00	大正琴④
3	7 / 14(日)	10:00~12:00	ヘルマンハーブ①	13	12 / 8(日)	10:00~12:00	合唱⑤
4	7 / 21(日)	10:00~12:00	大正琴②	14	12 / 15(日)	10:00~12:00	ヘルマンハーブ④
5	8 / 4(日)	10:00~12:00	自主活動日②	15	1 / 12(日)	10:00~12:00	発表会リハーサル
6	8 / 18(日)	10:00~12:00	ヘルマンハーブ②	16	1 / 20(日)	10:00~12:00	自主活動日③
7	9 / 1(日)	10:00~12:00	合唱②	17	2 / 2(日)	10:00~12:00	自主活動日④
8	9 / 15(日)	10:00~12:00	自主活動日③	18	2 / 16(日)	10:00~12:00	自主活動日⑤
9	10 / 6(日)	10:00~12:00	大正琴③	19	3 / 9(日)	10:00~12:00	自主活動日⑥
10	10 / 20(日)	10:00~12:00	自主活動日④	20	3 / 15(日)	10:00~12:00	自主活動日⑦

1. 自主活動日の進捗

(2) サポーター中心の活動へ

- ・グループごとに核となるサポーターを配置
- ・受講生の能力に応じた練習計画



自主活動日の様子

受講生 15名
サポーター 5名

9月15日(日) 自主活動日③

・ヘルマンハーブ

動画 ヘルマンハーブ
(筑城の月)

・大正琴

動画 大正琴
(ヒラガが吹いた)



・グループごとに核となるサポーターを配置



さわやかちば県民プラザで音楽サークル等で活躍されるサポーターを中心に 学びの場づくりの担い手

・受講生の能力に応じた練習



みんなで一緒に練習

障害の特性を踏まえた学びの場

一人一人のペースで練習



自主活動日の様子

受講生 15名
サポーター 3名

10月20日(日) 自主活動日④

・ヘルマンハーブ

3名のうち
保護者 2名

・大正琴

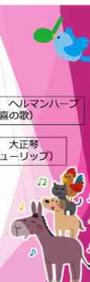
受講生が活動を 支える役割をもつ

手拍子や
言葉で
全体演奏の
テンポをとる



動画 ヘルマンハーブ
(牧場の歌)

動画 大正琴
(チューリップ)



受講生が活動を支える役割をもつ



全体への指示を出す



苦手な人に教える

主体的な学びへ

動画 教え合い



2. 今後の課題・展望

- (1) サポーターの確保と育成
- (2) 近隣施設との連携
- (3) 自主活動日のさらなる進展



文部科学省 障害者活躍推進プラン 概要 (平成27年4月)		文部科学省 ホームページより
<p>目的</p> <ul style="list-style-type: none"> 社会生活・職業生活における困難を克服し、より積極的な社会参加の機会を確保するため、平成27年1月に障害者活躍推進法(第104号)を制定。 学校教育、生涯学習、スポーツ、文化芸術の各分野において、より重点的に進めらるべきものに関するプランを打ち出し、障害者が積極的に関与できる社会の実現を目指す。 	<p>プランの目的</p> <p>1 障害者のみなさんへの社会参加の促進</p> <p>2 高齢障害者の学習・就業の支援</p> <p>3 障害者のみなさんへの社会参加を支援する</p> <p>4 障害者のみなさんの文化芸術活動の充実</p> <p>5 障害者のみなさんのスポーツ活動の推進</p> <p>6 障害者のみなさんの健康増進に資する社会環境の整備</p>	<p>1 障害者のみなさんへの社会参加の促進</p> <p>2 高齢障害者の学習・就業の支援</p> <p>3 障害者のみなさんへの社会参加を支援する</p> <p>4 障害者のみなさんの文化芸術活動の充実</p> <p>5 障害者のみなさんのスポーツ活動の推進</p> <p>6 障害者のみなさんの健康増進に資する社会環境の整備</p>

2. 今後の課題・展望

- (1) サポーターの確保と育成
⇒ **学びの場の担い手育成**
- (2) 近隣施設との連携
⇒ **学びの場の拡充に向けた体制整備**
- (3) 自主活動日のさらなる進展
⇒ **障害特性を踏まえた学びの場づくり**



「音楽を通して 生涯の学びを充実させる」



ご清聴ありがとうございました



障害者の生涯を通じた学びの充実のためのコンソーシアム

第3回会議 会議録

令和元年11月26日(火)

午後2時～午後4時30分

千葉市生涯学習センター 特別会議室

出席委員 (敬称略五十音順)

上條 秀元	佐川 桂子	鈴木 一郎	
田上 昌宏 (代理 岩野 明子)	中澤 尊史	萩原 稔之	
藤尾 健二	三浦 正志	向野 光	
横山 紀武 (代理 古川 正美)			

出席事務局職員

千葉県教育庁教育振興部生涯学習課	学校・家庭・地域連携室長
	栗芝 博
	同
	社会教育振興室員 3名
千葉県教育庁教育振興部特別支援教育課	教育支援室員 1名
さわやかちば県民プラザ	事業振興課員 2名
市川大野高等学園校長	田中 均宜

1 開会

2 出席者紹介

3 主催者挨拶 栗芝学校・家庭・地域連携室長

4 協議

(1) 協議 1 学習プログラム開発について ※資料参照

- ・特別支援学校における取組
- ・さわやかちば県民プラザにおける取組

(2) 協議 2 県外先進事例に係るヒアリングについて

主査 (向野委員) こんにちは。本日はまず、市川大野高等学園と県民プラザにおける取組についてお話をいただきまして、今現在、問題となっているところ、今課題となっているところを含めて、発表していただきたいと思います。その後、私の方で、県外先進事例に係るヒアリングについて話をさせていただきます。本日は、委員の皆様から、大いに夢を語っていただきたいと考えております。それでは、具体的な協議に入る前に、事務局から、協議のポイントなどについて説明してください。

栗芝室長 本日の協議ですが、まず、前回同様、特別支援学校、さわやかちば県民プラザにそれぞれの取組の進捗について説明をしていただいたのち、皆様方に積極的な議論をいただきます。次に、向野主査から、県外先進事例視察についてご報告いただきます。他の委員の皆様方からは、御感想をいただき、千葉県の取組に反映できればと考えております。

主査 ありがとうございます。それでは、特別支援学校における取組について、千葉県立特別支援学校市川大野高等学園の田中校長、よろしく願います。

発表者 【特別支援学校における取組の説明 資料参照】
(田中校長)

主査 ありがとうございます。どんどん前に進んでいっている印象を受けました。それでは、皆様からご質問やご意見があれば、いただきたいと思いますが、いかがでしょうか。

上條委員 大学とのコラボとのことでしたが、これは、特定の先生とのつながりの基に始まったのですか。

発表者 (田中校長) 順天堂大学は母校であり、昨年度・今年度と大学から依頼を受けて、「特別支援学校の現状について」というテーマで講義をしたということもあったことと、学生を中心としたオリパラ教育を積極的に行っているということがわかりましたので、交渉したというのが経緯となります。その後、先日、本校に視察にいらっしゃいました教育委員の井出元先生から、千葉商科大学や和洋女子大学等の近隣の大学にも協力してくれる大学があるのではないかと御助言もいただきましたので、今後、いろいろな大学と連携を進めていくことができると、もっと講座の幅が広

がっていけないのではないかと思っています。

主査 他に質問ありますか。

萩原委員 いろいろと都合がつかず、今年度初めての出席ということになってしまいました。初めてですので、ピントのずれたことを言うかもしれませんが、ご容赦願いたいと思います。

県の障害者福祉推進課でも、障害者のスポーツとか芸術とか、そのようなことをやっております。うちの視点としましては、各地域にいらっしゃいます障害をもった方が、各地域でスポーツに親しめる環境をつくらうということで、現在、取組をしているところでございます。

で、市川大野高等学園さんの場合は卒業生を中心に、卒業生が将来的にずっとスポーツとか文化・レクリエーション的なことをやっていきましようということですので、視点が違うかもしれませんが、いずれにしても先に繋がる部分があるのかなと思います。当課もいろいろ障害者のスポーツを広めていこうと考えておりますので、教育庁の特別支援教育課さんなども協議させていただいて、お互い協力し合えるものがあればということで、いろいろと新しいことを考えているところで。市川大野高等学園さんとも、協力できることがあるかもしれませんので、今後とも是非、できることは一緒にやっていきたいと思っております。

主査 実は個人的には、その話を是非したいと考えておりました。というのは、文部科学省からの委託を受け、生涯学習課の事業として研究を進めているわけですが、研究指定が終わってしまいますと、いただいていた資金が途絶えてしまいます。その後どうやって継続していくのかといった中で、根性などの精神論だけでやっていくことはできないだろうと、ちょうど話をしているところでした。

今日もこの後でお話をさせていただきますが、町田市に先進事例視察に伺った際、非常に潤沢な資金をもっているのだなと最初は感心するばかりでした。しかし、よくよく考えてみますと、町田市の生涯学習センターを主管しているのも教育委員会でした。なぜ、資金的なゆとりがあるのかと確認しましたところ、福祉部局と結びついていて、福祉の方の資金を潤沢に使用できているというカラクリがわかりました。

今の障害者福祉課長さんのお話を伺いまして、これから良い話が出てくるのかなと、感じました。先立つものがないとなかなか難しいものです。しかし、今日のような話が伺えて、明るい兆しだと思いました。また、この点に関しましては後で深めていければと考えております。

藤尾委員 何点かあるのですが、1点目は、将来的なお金はどうするのかという話については、この生涯学習講座の資料などは、受講者から徴収すればいい

うために、生涯学習という視点というのはとても大事になってくると思っています。

県からの指定を受けたということもありますが、とてもよいテーマをいただいたと思って、この指定をきっかけに教育課程を再編成していきながら、こういうことが大事だと生徒たちにも知ってもらって、自ら考え、判断し、行動できるようにそんな人になってほしいという願いをもってやっています。

三浦委員

先ほど確認という言葉を使ったが、私どもも就労されている障害者の方の余暇活動を支援するという側面もあります。この余暇活動という言葉を変えて考えた時に、実は先日、国立教育政策研究所の方と協議させていただく場があって、その方から、「就労者の余暇を充実させることが、就労の継続に繋がる」という話がありました。また、別の方からは、「余暇支援をすることで、仕事の充実・精度が上がる」という話も伺いました。

県からの補助がなくなるかもしれないということであれば、舞浜コーポレーションをはじめとする企業との連携ということも考えられるのではないのでしょうか。

田中校長

中澤委員とそういう話をさせていただきまして、「特例子会社連絡協議会の会合に参加して、話をしてみませんか」と、声をかけていただきました。昨今、法定雇用率の達成の話題がクローズアップされていますが、大事なのは、長く元気に働き続けるためにはどうしたらよいかについて、企業の方々が一生懸命努力されておられますので、そういった企業の方たちとタイアップしていくことが、とても大事になるのではないかと考えています。そういう意味において、生涯学習をもっと充実させていきたいと思います。

三浦委員

探すと、手伝ってくれる企業があるんじゃないでしょうか。

主査

中澤委員、御発言をお願いします。

中澤委員

この件に関しては、我々企業それぞれが自力でイベントを行っています。余暇活動支援といったものも、それぞれの力量でやっている状況があります。ただ、それがもう少し、広がりをもって全体的に統合というか一緒になって、それも企業だけではなくて、教育あるいは行政の皆様とやっていく、そういう状況がつけると、我々企業サイドとしても、本当にもっと幅が広がるし、深みも増すかなと考えています。先ほど話に出ましたが、1月に我々の特例子会社連絡協議会の幹事会でプレゼンさせていただいて、企業サイドとして何ができるのかということについて、本格

的に議論できればよいと思います。埼玉県や神奈川県は進んでいるなあという印象がありますので、千葉県としても簡単に追いつけるとは考えてはおりませんが、このような話題を持てることは、来年度以降楽しみであると感じています。

主査

各委員の話を伺っておりますと、それぞれのお立場・関係部署を含め、障害をもった方たちの将来、何らかの形で関わっていかねばならないと思います。それが個々に行われているというのが現状ではないでしょうか。それらをまとめていって一つの形をつくっていくのが、このコンソーシアムの役割かなと、学校の役割・生涯学習の役割・企業の役割、それぞれ福祉の役割といったものが、知恵と人材と資金、そのあたりを出し合っていける何らかの組織をこれからつくっていくとよいのかなと考えます。

もう少し深めていきたいところですが、次の発表に移ります。

発表者

【ブラザ さわやかおんがく隊における取組の説明 資料参照】

(星 主査)

主査

ありがとうございました。それでは、皆様から御質問や御意見があれば、いただきたいと思いますが、いかがでしょうか。

鈴木委員

年間活動表についてですが、コンサートの予定が消えてしまって自主活動日になっています。昨年度末は発表会があったと思うのですが、そのあたりの理由があるのでしょうか。先ほど動画を見させていただきましたが、今年の進捗の度合いがはかばかしくないのかなと感じました。その兼ね合いもあるのかなとは思いますが、発表の場というのは一つの目標でもあると思いますので、できればそういう機会を設けた方がいいと思います。というのも、9月に県民音楽祭というものがあり、たまたま流山高等学園の音楽部の発表を見る機会がありました。障害をもつ人たちの発表に感動しました。県民に理解してもらうよい機会だと思います。

星 主査

さわやかちば県民ブラザの防災設備の故障で、10月31日からブラザ自体が休所となっています。コンサートは行えなくなりましたが、フォーラムの中で発表の場を用意したいと考えています。発表する場は大事です。実際、参加者の中にも「発表ないの？」と聞いてくる者がおられます。その意欲を継続させる意味でも考えていきたいです。

藤尾委員

課題のところにも挙げられている「サポーターの確保」についてですが、資料中にはサポーターの人数が活動日によってばらつきが見られ、このあたりを今後の課題とされていますが、前回は確か、大学生のゼミ

とかとコラボであるとか言われていたように思うのですが、その後の動きは現在どうなのでしょう。市川大野高等学園の方は動きが見えてきているということ、もし次年度からと考えていらっしゃるならば、今年度中に具体的に動き出さなければならないと思います。なぜなら、これから様々なものが次年度を見越して動き出すからです。そこを掴んだ上で、スタートを切れるか切れないかは全然違うものになってしまうからです。ということで、現在の進捗状況をもう少し教えていただきたいと思います。

星 主査

県民プラザ内に、ボランティアセンターというものがあります。その職員に我々の活動の様子を見ていただきました。その上で、施設ボランティアと呼ばれる方々が800人登録されているので、そちらにも働きかけをすることになりました。また、「さわやか青年教室」事業には、近隣の江戸川大学の学生が参加していますので、先ほどありましたように、今年度中に声かけ等の動きを行います。

上條委員

昨年度、練習の様子を拝見させていただいたことがあります。その時に見かけた子が、とても上手になられていました。また、その子に声かけをしていた子も同じ参加者でした。よい人間関係ができてののだなど感心しました。

気になったのは、楽器の数、特にヘルマンハーブの数が少ない。今後のことを考えた時に、そのあたりの手当をどうするのか。今後に向けた問題に対する対策・取組を含めて、構想というか、考えを聞かせていただきたいです。

星 主査

予算の関係で、ヘルマンハーブを5台レンタル、それにヘルマンハーブ振興会の方が1台無償貸与してくださっていて、6台でやりくりしている状況です。大正琴にいたっては、先生から無償貸与いただいているのが5台、職員が所有しているものが2台という状況です。ヘルマンハーブも大正琴もBグループにいる者の中には厳しい者がおりますので、来年度については、クワイアチャイム（トーンチャイム）を導入して、活動の幅を広げられないか、検討中です。

事務局

（生涯学習課）

追加で言わせていただきますと、国の委託条件の関係でヘルマンハーブに関しては、レンタル契約しか認められていないという状況です。他の活動費との関係で、予算内で、精一杯やりくりして、現状となっておりますことを報告いたします。

上條委員

現在、ヘルマンハーブを使用されておりますが、今後、継続していき

かどうかを含めてわからないということですね。

事務局 国の委託期間が終了した場合、現状においてはそういうことになりま
(生涯学習 課)

課)

主査 そのあたりも、今後、考えていかなければならないということですね。

主査 【県外先進事例視察の報告 資料参照】

主査 【全体を通して】

神奈川県あたりでは、大きな動きがあるようですが、そのあたりのお話を
中澤委員に伺いたいのですが。

中澤委員 実際に神奈川県まで行って実際に見たわけではありませんが、特例子
会社や教育機関や親御さんを含めて、いろいろな利害関係と申しますか、
ステークホルダーの皆さんが集まっている大きなまとまった組織体があり
ます。昔から、神奈川方式と呼ばれていたりしています。本当に、毎週
のようにいろいろなことをやられています。

その団体の中にも分科会のようなものがありまして、特例子会社のユニ
ットがあり、HP等での発信も行われています。企業を引退した方が
理事をされていたりして、そのような心を持った人たちが集まって、動
かしている熱い集団ですね。藤尾さんの方が詳しいかと思います。

藤尾委員 大昔から活動されていますね。まさに、働くことを安定させるためには
どうしたらよいか、という部分に直結しています。何も制度もないと
ころから作り上げてきたというのが彼らの流れです。

ここまでの話の腰を折ってしまったら申し訳ないのですが、先程来か
ら出ている、全部自分たちでつくって、人・金・物をどうするのかという
ような話は当然出てくるだろうし、同時に今、受け皿があるかないかは
別として、言葉だけで言えば聞こえのよい「インクルーシブ」というもの
が横行してきていると感じています。

現在の事業が1・2年で終わりにになると、それまでの間にやっておかな
ければならないことは何か、それは場所づくりなのか、そうではなくて
選択したところでちゃんとやれるように仕掛けていくことなのか等を、
考えなければいけないと思います。我々のところでも、OB会をやっ
ても来ない人は来ません。なぜかと言うと、余暇が充実しているから。自分
で自分の社会資源を十分に活用しているから。それがまだできない環境
が世の中にはまだまだあるということが、大きな問題だし、今後、着手し
ていかねばならないことだと考えると、本人たちが地域の社会資源をど

うやって活用できるかという仕掛けと同時に、受ける側の社会資源がどうやってそういう方々のサポートまで汲み取ってやっていくのかというところを広めていくというのが重要な役割だと思っています。

たまたま11月9日の土曜日に、シンガーソングライターを招きました。これには、一人500円徴収しました。私がお後、11月24日に永福町で開かれた同じ方のライブコンサートに出かけたところ、9日に参加されていた方が家族と一緒に来られていました。きっと今後も、ライブ等に参加されるようになるかもしれません。おそらく趣味の領域が広がるきっかけになったのだらうなと感じました。

プラザのヘルマンハーブもそうだと思います。それがきっかけになればいいです。ハーブをきっかけに、楽器に興味湧いて、ギター教室に行きたいってなった時に、受けてくれるところがあるのかなのか、そこへ広げていくのが、本来主訴であるのではないかと思っています。

一方、どうしてもそれらに乗らない人たち。それが福祉領域なのか、それとも働いているわけだろうから、福祉サービスの利用等、そういう場所が必要なのかとか、ターゲットが変わってくるのだらうなという気がします。

例えば、市川大野高等学園の同窓会をホテルか何かを会場にしてやってもらいたいなって思います。みんなが集まる場をつくり、それこそ会費制にして、みんなで飲み食いをすればいいんだと思います。

「集まる場」という面と、「学びの場」という面と一緒にしてしまうと、見えづらいものがある気がしていて、例えば、「学びの場」であれば、それこそ公民館などが、全てのプログラムに対して、障害のある方が入ることが平気になれば、特立ててしなくてもよいように思います。そこが、「ゴール」ではないでしょうか。それに向けて、今どういう種をまいていくのかという考え方をしてみた時に、さて、来年度またはそれ以降、どうやっていけばよいのかという風に、私は考えていました。

主査

全然、腰なんか折っていませんよ。本人参加という点では岩野さんいかがですか。以前、「行ける人はいいわよ。行きにくい人もいるのよ」という話をされておりましたよね。

岩野委員

市川大野高等学園のところもそうなのですが、一人で参加できる方はそれでよいと思うのですが、我が家の子どもの場合は、現場まで行くことができません。もちろん、就労もしていません。普通の生活介護事業所に通っています。こういう者たちはどうすればいいのかというのが、大きな課題として、小さな規模で行われているものはちょこちょこありますが、役所等の大きな力で運営してくださっているものは全然ないというのが現状です。

10年ほど前に知ったところで、長野県に社会福祉法人「森と木」とい

う団体があります。そこの理事長さんがとてもユニークな方で、生活介護事業所に通っているような者に対しても、夕方からカフェを開いていらっしゃるようです。障害者も雇用するレストラン等も経営されていたり、生活介護事業所もやっておられたり、土日にも様々な企画、旅行等を企画されたりしておられます。

我が家の子どもの場合、親が何とかしていくしかないのではないかと、いうところから抜けきれないところがあって、市川大野高等学園の生涯学習講座で、前回、保護者の参加があったと聞きました。あれは、自分で参加できることができないからついていったのか、興味関心があったから参加されたのか、気になっておりました。その生涯学習講座の学びの場に、我が家の子どものような者が参加しても、楽しめるようなものなのかを知りたいです。

田中校長

生涯学習という視点はまだまだこれからなので、だからこそ研究していかなければならないということでスタートしました。今は、地域を大事に進めているところですので、本校は葛南地区を拠点にした中で、就労している子たちを対象とした生涯学習の在り方を充実していこうとするコンセプトで始めています。

ただ、これから上げていくという視点に立った時に、今のプログラムをどのようにしていけばよいのかというのは、今後の課題であると認識しています。ずっと、就労している軽度の子たちの生涯学習を続けていくつもりはありません。まず、とっかかりとして、まだ充実していない軽度の生涯学習をしっかりやっていこうというのがスタートでしたので、現状もこのような形であることを御理解いただきたい。

岩野委員

生涯学習ということ言えば、我が子の場合、卒業後に特別に何かをもらったという記憶はありません。確かに卒業後に同窓会というものもありましたが、卒業後5年間を過ぎたら、案内状が届くこともありませんでした。

主査

それでは、佐川委員、お願いします。

佐川委員

この事業は、文部科学省から「卒業後の生涯学習」ということで、「障害者のための生涯学習」の取組が始まったと記憶しております。特別支援学校が何をできるかということで、先ほど「卒業後は何もやってもらっていない」と耳の痛い話を伺ったところですが、学校ごとに様子が様々かなと思います。本校の同窓会組織で申しますと、数年間は会員であり、その後は選択できるようになっております。ですので、本校では、40代50代の方もおり、毎回楽しみにしていらっしゃる方もおります。

今日の話をもってきて、いくつか思ったことがありまして、1つは前々から話題になっていて、今回も県民プラザで目指してくれている自主サ

ークル化ということでしょうね。そういったところで、当事者の人たちがどれだけ自主的に運営できているかということですね。そのポイントって、その活動が好きかどうか・興味をもてるかどうかってところだと思います。もしかしたら、障害が重い軽いではなくて、音楽が好きであるとか、絵を描くのが好きであるとか、興味関心の強さという部分があれば、ずっと繋がっていきけるのかなということを思いました。

関連した話題でこんな話もあります。現在、千葉県のある特別支援学校の校長先生をされている方が若い頃、卒業生と一緒に音楽バンドを結成し、それがもう結成して17年くらいになっているそうで、毎年200人くらいの観客を集めてコンサートを行っている様子が、冊子に紹介されました。まさに、自主サークルの例だと考えますが、これなどは原点には、好きかということが大きいのかなと思います。

さらに、別の話題になってしまいますが、本校で、地域の公民館サークルの方たちに、公民館活動の中で「障害のある方を受け入れることができますか」というアンケートをとったところ、「どう接していいかわからない」ので、受入れするのは無理という回答が多かったのです。そこがポイントになるのですが、それは自主サークルということではなくて、一般のサークルの中に障害のある方が入るかどうかといった視点があるのだなと思いました。

コンソーシアムを続けてきて、当事者から攻めていく視点と、周り・一般の人たちにどうアプローチしていくかという視点との両方の視点が明確になってきたのかなと思いました。ただ、それをどうしていけばいいのかという方法論のようなものは、先の話になってしまうのかもしれませんが。

主査

回を重ねてかなりはっきりしてきたのは、それぞれのところでいろいろなことが行われています。それをどのように繋げていくか、結んでいくのか、それを結ぶ方向はどのような方向なのかというあたりを、今後示していければいいのかなと思います。

今回いただいた様々な意見を事務局も含めて、次年度の方角として固めていきたいと思っています。そして、次回、第4回に少しでも形になればと思っています。